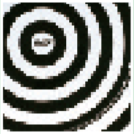
東京

10/21 ON SALE
¥1,200（TAX IN）
FROM SPEEAD STAR RECORDS

もしもし



SOLD OUT
¥1,500（TAX IN）
FROM BAD NEWS RECORDS

ファンデリア

NOW ON SALE
¥2,000（TAX IN）
FROM BAD NEWS RECORDS

LIVE INFORMATION

10/21
十三ファンダンゴ
（ワンマン）

11/4
下北沢シェルター
（with リトルブラウンジャック 他）

くるり新聞 Vol.2

きしだー

岸田語録 その2

「電車は小さなオーケストラ」

レーラーの中でもサウンド派に属する岸田は、電車のモーター音には非常に敏感に反応する。そこから音楽に開眼したという説もあるほどに、彼の中で電車と音楽は密接に結びついている。この言葉は今年の夏、東京でディレクターのT氏、マネージャーのF氏を交えながらくるりのメンバーと電車で移動中に発せられた発言。電車のモーター音から発せられるハーモニクスは確かに存在し、電車でこの言葉を聞けばかなりの説得力がある。

●編集：株式会社バッドニュース　東京都渋谷区富ケ谷1-43-2 EDIH富ケ谷5F TEL 03-3468-8110 FAX 03-3468-8115　担当：藤井寿博　レイアウト：小林ハジメ（Bad News）
●発行：ビクターエンタテインメント株式会社　東京都渋谷区神宮前4-26-18 TEL 03-3746-5705 FAX 03-3746-5631　スピードスターレコード（制作）高橋太郎（宣伝）石田稔

くるりの「ちょっとイイ話」スペシャル!!読者置き去り電車対談（ゲスト:LaBLIFe /大舘さん）

今、電車がキテいるらしい。電車でGOは大ヒット。おまけにあのオシャレな雑誌ブルータスも特集を組んじゃったり。それにプロモでくるりがいろいろまわると意外にも隠れレーラー（電車マニアのこと）が多く、電車の話でかなり盛り上がることもしばしば。そんなわけで今回のミンチーではそんなレーラーのゲストをお招きしての電車対談を。ゲストはポストフリッパーズとの呼び声も高いLaBLIFeの大舘君。岸田君とはタイプは違うものの、岸田君曰く「なかなかのヤリ手」だそうで、異様なほどの盛り上がりを見せた。この模様はLaBLIFeのフリーペーパー“月刊ラブライフ”でも掲載されます。もちろん内容は違うので、そっちもチェックしてね。

司会:ブルータスで電車特集がありましたが。

岸田:電車って個人的なことで群れてすることじゃないから別にどうでもいいんですよね。

大舘:でも、鉄道マニアってやっぱり隠しちゃうわけじゃないですか。

岸田:ねえ。鉄道マニアとは七三分けやとかあったでしょ。身にしみてわかりましたよ。

SUMMER GREETING
british

ラブライフきっての（っても2人組だけど）レーラー大舘名人（鉄道七段）

大舘:あれはでも偏見。

岸田:偏見ですけど、あるんですよそういうの。僕自身も鉄道マニアですけれど、そういう人達に偏見ありましたし、大学の鉄研とか行ってもそんな人ばっかりやったし。

大舘:鉄研入ってたの?

岸田:いや、1回見学行ったんですよ。ほんならこんなん絶対イヤやって思って。

大舘:オレ、大学の時ずっと隠してたから。やっぱ恥ずかしいし。

岸田:そうそう。でも小学校の時とかクラスにいますやん。集まってなんやら言うてたりしたんですけど、中学とかになったらもうイジメの対象にしかならないじゃないですか。

大舘:小5か小6が境界線。ピアノを習ってるやつが小6ぐらいになると恥ずかしくなるのと同じ。中学くらいだと隠しちゃうのが、高校くらいになるとまたカッコよくなってくるから、続けときゃよかった〜とかなるんだけど。なんで鉄道は戻って来ないんだろう（笑）。

岸田:来ないですよね! いいじゃないですかね、乗ったことない奴なんかおれへんのに。だから正直、ネタになるのが不思議で。

大舘:結構、みんな電車って好きだと思うんですよ。電車でGOの当たり方とか見てもね。

岸田:そうそう。要は車好きな人と一緒でしょ。

大舘:でもなぜか車好きは結構イケてる。走り屋系でまた違う文化があるからね。

岸田:電車ヤンキーいないですもんね（笑）。やっぱ改造できへんからですかね。でもシャコタンの路面電車、今、熊本に走ってんのに（笑）。僕は分類するとクラシックカー好きな人と似てると思うんですよ。ちょうどフォルクスワーゲンのビートルとか原チャリで言えばベスパとかああいうのの電車があるでしょ、昭和30年代の丸っこいやつが好きなんですよ。

大舘:昭和28年くらいからの。

岸田:つりかけからカルダンになったぐらい。駆動装置がつりかけっていう古い方式からカルダンっていう、いわゆる高性能車になった初期のやつがすごい好きなんですよ。つりかけの音とかもカッコいいと思うんですけど。

大舘:サウンド派って実は会うの初めて。バウンスの広告で京都から日本一周のやつ見て、鉄道好きの人がいるんだってうれしくて見てて。でもたかが知れてんだろうって思ってたら、101系のモーター音がとかあって、ヤベーオレ負けてるって（笑）。すごいコアだって。

岸田:でも、ELのモーター音とか注意とかしてませんでした?

大舘:してなかった。オレはスペックとか出力とか。

岸田:僕、スペックは弱いんですよ。でも、出力とかはいいですよ。電車の出力とかは結構詳しいですよ。だから、モーターの出力とかモーターの形式とか会社とか。

大舘:それがすごいよな。オレ、全然そういう方向とかには……。だからEF65が何キロワットみたいな2550だったけ? そういうのを追ってきたから。あとは写真とかにいったから。

岸田:写真はあんまり撮らなかったんですよ。

大舘:方向性分かれちゃうじゃないですか。

岸田:わりとありますよね。選択肢が。だから音楽にもいろいろ幅があるように。

大舘:模型にいったり。ブルータスの分類はちょっと違うんじゃないか、これ書いたやつは鉄道マニアじゃないだろうとは思ったけど。

岸田:ですよね。僕思うんですけど、模型派とか旅行派は健全な部類やと思うんですよ。

大舘:じゃあマニアックな部類っていうのは?

岸田:例えばブルータスに書いてあったのでいうとバスにいってしまったりとか。

大舘:あれはないですよ。

岸田:でもね、知り合いでいるんですよ。すごい小学校の時鉄道好きやったやつが中学校の時に会うたら、オレ、今全然バスやわって。音でいいすずと日野の違いわかるでって。

大舘:それでも鉄道マニアじゃないよ。

岸田:なんかねえ、鉄道マニアやったんですけどね。行き着く先はバスかなあって思って。

大舘:あ、でもオレも一時期バスいってたわ（笑）。横浜市営バスにいってた時期あった。

岸田:僕もバスのフォルム、車とかバイクよりもフォルム的なものは好きなんですよ。だからバスでも結構昔のものが好きやったり、ボンネットバスとかいすずのバスとかね。

司会:なんで電車からバスにいくんですか?

岸田:乗用車にいかないのは乗用車はチャチいんですよ。5人しか乗れへんやんけって。

司会:たくさん乗るのはポイントなんだ。

ご存知、京都の音響派レーラー。くるりのメガネ兄さん岸田名人（鉄道七段）

岸田:ていうか、自分で持てないでしょ。それは重要ですよ。それに乗用車って人間に近いところで動いてるじゃないですか。そうするとあんまり興味ないんですよ。電車とかすごい大衆性を意識したデザインやったり機能性であったり。あんまり趣味に走ってないところがすごいカッコいいんですよ。

大舘:オレはね、電気機関車好き。電気機関車って車よりも要は戦闘機系。

司会:スミマセン、全然わかんないです（笑）。

岸田:わかりますわかります。戦闘機系ですね。孤高のストレンジャーって感じですよね。一番孤立しててカッコええっていう。SLってマニアじゃなくてもええなって思うからあんまりですけど、DLとかELってそういう意味では一番遠い存在じゃないですか。

大舘:たぶんSLに入れる思い入れが電気にいっちゃったんじゃないかな。年齢的にそうでしょ。リアルタイムで実感しないとたぶんあれはね。

岸田:飾りもんでしかないですからね。SL山口線とかアホちゃうかって感じですよ。

大舘:アレはダメですよ。今山口線走ってるのはどっちかっていうと観光バスなんですよ。

くるりの「お店の人とこんにちは」

くるりは関西のライブハウス・シーンで産声を上げた。最近では東京で定期的にライブを行ったり、幅の広いバンドと対バンを行ったりしているが、そこで培われたものがちゃんと活かされているバンドなのだ。今回はドラムの森とHMV天満橋店のバイヤー黒井さんで、これまで対バンしてきたバンドの数々の思い出、ということで始めます。

黒井:今まで関西で活動してきてるじゃないですか。印象に残っているバンドは?

森:やっぱクリンディストーションでしょ。

黒井:ははははは（HMV天満橋店の秋野さんがメンバーでこの場にも立ち合っていた）。あの時のファンダンゴ、春くらいにあったじゃないですか。あの時のライブがかなり衝撃的だったんですよ。

森:ああ、あん時観に来てはったんですね。シュガーフィールズのと出て、1曲だけ『虹』とかやったんですよ。

黒井:一緒に観に行ってたコとみんなで、一番印象に残ってて、すごいよかったなあって次の日ぐらいまでずっとひっぱってましたよ。

森:対バンさんがラフィアンズとかカッコいいバンドさんだったんで、かなり燃えてたという。でもね、ハコによっても違うんですけどファンダンゴって僕らに合うてる感じで、今度のワンマンもすごい楽しみなんですよ。

黒井:他に好きなライブハウスは?

森:心斎橋クアトロとかいいですね。

黒井:あ、この間、ゆずとセロファン（笑）。

森:ゆずは同い歳ぐらいやのに、お前ら若いなあって感じで。なんかおっさんみたいですね（笑）。でも、同じひらがなのバンド同士頑張りましょうとか言われて（笑）。セロファンさんは昔からやらさせていただいてるんですけど、割と聴いてる音楽は似てるんですよ。XTCとかその辺のひねくれポップみたいな。

黒井:年齢は離れてますよね、実は（笑）。

森:でも、デビューは似た感じの時期で、ライバル視はしてるんですけど。黒井さんは今まで印象に残ってる場所ってあります?

黒井:IMPで見させていただきましたライブが。

森:あん時はスピッツとフラカンとサニーデイとか錚々たるメンツでしたから。その時の打ち上げでスピッツのドラムの崎山さんと話たんですけど、音楽に対する姿勢っていうのがまっすぐで、いろいろと勉強になりました。

黒井:サニーデイともしゃべったんですよね。

森:サニーデイさんには仲良くしてもらってて、この前、司会なさってるボニータってスペースシャワーの番組に出たんですよ。

黒井:面白かったって友達が言ってましたよ。

森:で、その後、一緒に飲みに行ったんですけど。サポート・メンバー抜きの3人対3人で対バンしようって話で盛り上がって。まあ酒の席の話なんで実現するかはわかんないんですけど（笑）。

ディスク・レビュー

XO / ELLIOTT SMITH

とにかくやられてしまった。今年のベスト・アルバムが決まってしまいました。アコースティック・ギターを巧みに使うシンガー・ソングライターは沢山いるのですが、ここまで声やメロディと有機的な化合を繰り返す音というのも余り聴かない。ピーター・ケースの最新作やアーノルドの新譜などもアコースティック=単に耳障りのいいもの、という図式を崩してくれたが、この作品も彼らの作品と同じく耳ではなく三半器官に作用する。健康でも不健康でもなく、陽でも陰でも、ハトでもタカでもないトリップ感が味わえるという点で、新型のジャンルではなかろうかと思う。“ネオアコ”などという言葉が使い古される事なく彼の為にとっておけば良かったのにと思う程新しい。とりわけM-2『Tomorrow Tomorrow』。これはは明日の歌だ。この歌を純粋に歌う事が出来るアーティストが存在する事をあなたの耳で確認してほしい。（岸田）

NAVY BLUES / SLOAN

カナダのギターポップ・ロックのバンド、スローン。私がこれを買うきっかけは試聴機の故障だった。2曲目のビートルズチックな『カモンカモン』という良質な3分ポップはサウンドを飲み込むノイズで終わるのだが、なぜかリピートになっていて始まりも歌とバンドが同時にはいっているため気付かず、延々と5回くらいその曲を聴き続けていたのである。それだけ1曲を続けて聴くと好きになり、その曲の演奏時間が知りたくて購入してみると3分30秒しかなく、その時はびっくりした。しかし他の曲もよく、買ってよかったと思ったわけである。それにしてもこのバンドはよほどイギリスに思い込みがあるらしく、メロディやアレンジ、カッコいいギター・サウンドに美しいコーラス・アレンジまですべて新旧のよき英国風であり、地味だけど、オアシスばりの『STAND BY ME, YEAH』などという曲を入れているおちゃめなところとかにも彼らの真剣さが見えるので、私は好きだ。（佐藤）

SECOND COMING / THE STONE ROSES

フジロックで一番期待外れやったのがイアン・ブラウン。ソロアルバムは「カッコええやん」と思わずにんまりして聴いてたんやけど、ライブがイマイチ。リズム隊に黒人迎えてバンドとしては鉄壁のアンサンブル。強烈なグルーヴしてたけど、なんか面白くない。僕はもっと“ロック”な彼を見たかったんや。こんなもんじゃないやろイアン・ブラウン !!

それで家に帰ってローゼスが無性に聴きたくなって。『石と薔薇』もすごいけど、僕が初めてローゼスに触れたのが『セカンドカミング』で、はっきり言ってかなりの衝撃やった。アルバムを通して感じとれる独自のグルーヴにジョン・スクワイアのつんざくようなギター。そしてイアン・ブラウンの優しい声。この全てが絶妙に融合して一つになった時、彼らにしかなし得ない独自の“ロック”ワールドが広がっていく。久しぶりに聴いて思ったけど、このバンドのリズム隊はやっぱりすごい。マンチェスター系でここまでカッコいいグルーヴ出してるバンドおれへんわ。（森）

佐藤征史の「大学生日記」

猛暑の2日間、行ってきましたフジロック。今年は存分に楽しみました。前日に原付サークルジェットで海まで行って泳いで、それから夜行列車に乗って東京へ。夜行では斜め前のオッサンがうるさくて全然眠れなかったけど、朝になるともうワクワクで駅でビール飲んでました。よくわからないけど、やっぱり日本人はお祭り好きみたい。当日になると元気も湧いてきます。

10分遅れぐらいで会場のゲートをくぐるといきなり『スモーク・オン・ザ・ウォーター』が流れて来て、なんじゃコリャとも思いつつ気分は盛り上がり、またビールを買って場所取りをして、ミジェットを見物。音はイマイチだけど前に行きたくなり、ビールを飲み干し、気合いを入れてステージ前に。でも一番前でもスカスカで「どうしたフジロック!?」と思ってたらステレオフォニックスでは人がどっと増え、ブランキーでは心地良い人の波になった。ブランキーは今年のフジロックの中でも一番と思えるほど素晴らしくカッコ良いライブでもう最高潮、ソニックユースのノイズではフワーとなってコステロで鳥肌が立ちベックは楽しすぎて大変なことに。ビョークは動きがウィルコ・ジョンソンみたいで面白かった。

2日目は暑さでちょっとダレましたがベンフォールズ・ファイブやプライマルは最高でした。が、去年の教訓を忘れ、私は 2年連続ビーチサンダルで行ってしまったから、1日目は前日の雨で地面がドロドロで悲惨でした。でも鼻緒がとれまくっても裸足でずっと跳ねてました。全然知らない人がテキーラやオレンジジュースをくれたり、大阪のパンクな兄ちゃんと知り合いになれたのもよかった。

やっぱりフジロックは「祭り」の一言。ただ来年も行くぞと思う反面、富士で開催するのはやめてくれとも思いました。

岸田繁の「各停で行きましょう」

最近思うのが京都 大阪間移動でどの電車を使うのが一番効率が良いかという事です。JRか阪急かそれとも京阪か……。皆、迷ってる筈です。ちなみに私は地下鉄沿線に住んで、JRなら京都、阪急なら烏丸、京阪なら三条から乗ります。目的地は梅田ないしは心斎橋です。そこで3社を比較して点数をつけてみましょう。良い順に3点から。同率1位は2.5点ずつとなります。

点数的には阪急、京阪が高いですがやはり急ぎたい時はJRに乗ります。間違っても京阪には乗らないですね。私は阪急に乗る事が一番多いですが、急行や準急が本数ムチャクチャ多いくせに特急が少ないんです。それに加え高槻に止まるから結局大阪に行くのは1時間かかったりもしてしまいます。急ぐ時はJRです。30分ですから。

帰りはのんびり京阪で座って帰るのが好きですね。テレビカーやダブルデッカー（2階建て）の1階席からホームに立つ女子高生のスカートの中身を拝見するのとか……楽しいですよ。帰りは座りたいですからJRは乗らないです。阪急も並ぶのがダルい時は嫌ですね。まあ、結局はケース・バイ・ケースですね。

	料金	所要時間	アクセスの便利さ	本数	快適度	混雑度	合計点
JR 新快速 京都-大阪	540円 1	29分 3	京都駅や新大阪大阪駅は便利 2	15分に1本 2.5	車内が臭いで心地悪い 1	いつも満員 1	10.5
阪急 特急 烏丸-梅田	390円 3	38分 2	繁華街同士を結ぶので非常に便利 3	20分に1本 1	車内キレイで心地よい 2	かなり混む 2	13.0
京阪 特急 三条-淀屋橋	400円 2	45分 1	少し不便なターミナル 1	15分に1本 2.5	車内デラックスで快適 3	昼間は座れる 3	12.5

モッくんの「二度は言わんぞ !!」

僕は“ そばアレルギー ”なんです。小さい頃は大丈夫やったけど、ち○こに毛が生えてきた頃から急に食べられへんようになって。そばを食うと喉の奥がめちゃくちゃかゆくなって、ひどい時は呼吸できへんぐらい苦しくて、ホンマに大変。医者に行ったら「そば食ったら死ぬから」とか言われて。かれこれ10年以上そばを食ってない。食いもんの好き嫌いがないだけに無条件で食えないのが悲しいと言うか腹立つと言うか。それで逆によく食う食いもんはと言うと、小学生みたいやけどカレー。僕は一人暮らし、ビンボー、かつ面倒臭がりなのでレトルトをよく食うんやけど、これが探せばかなりうまいのがある！ それで僕が近所のコンビニを片っ端しから荒し回った結果、辿り着いたお薦めベスト3を紹介しましょう。

★3位　大銀座カレー（明治）……福神漬けがさりげなくオプションとして付いているのが魅力。かなり辛目。薄切り牛肉と玉葱のハーモニーが素晴らしい!

★2位　銀カレー（SB）……名前のごとくパッケージが銀色のカレー。金カレーという兄弟カレーも存在。スパイスにこだわっているのか、他のレトルトにはない独自の辛みを追求している点が◎。

★1位　洋食倶楽部（ハウス）……赤ワイン仕立てのビーフカレー。これはある意味レトルトの枠を超えていると言ってもいい。味のまろやかさ、深みは他のレトルトの追随を許さない。上品な味わいが魅力。

★番外編　めいらくカレー（スジャータ）……めっぽう安い。が、その割に旨い。うちの近所ではこれを一つ80円で売っている。辛口の上のラング“ 極辛 ”でもあまり辛くない。

以上僕の好きなカレーでした。でもね、やっぱり限界はある。手作りには勝てません。

どこかに僕にカレーを作ってくれる人はおらんかな～。

読者の穴

宛先：東京都渋谷区富ヶ谷1-43-2 EDIH富ヶ谷5F
株式会社バッドニュース　くるり新聞「ミンチー」読者の穴係

読者の素朴な質問に答えるこのコーナー、前回のミンチーを読んでさっそくお手紙いただきました。でも、まだ1通のみ！ もっと質問してあげてください。鉄道ネタばかりではなく、好きなミュージシャンから女のコのタイプなどなど、どんな質問にも答えます（たぶん）。掲載分にはプレゼントをあげちゃおう。だからふるってご質問ください。

●質問

岸田君に質問。どうしてそんなに電車が好きなんですか？好きになったきっかけとか教えてください。

（愛知県　朴未歩　19歳）

●回答

昔、子供の頃から家に車がなかったのでどこへ行くにも電車で移動ばかりでした。まあ、乗ってるうちに子供ですから特急が来たりとか変わった車両が来るとうれしいわけです。そんなこんなで結構詳しくなってきて、小学校の頃、鉄道雑誌を読み始めました。そうすると興味はどんどんマニアックな方にいってしまったわけです。まあ、今号のミンチーはLaBLIFeの大舘君との対談を楽しんでくださいな。

*お詫びと訂正

ミンチーvol.1号
くるりの「ちょっとイイ話」本文中にて
スピッツの企画したイベントと
記載してありましたが
夢番地さんの企画した
イベントの誤りでした。
関係者の皆様に
慎んでお詫びし
ここに訂正させていただきます。